

# 常なる磐

つねなる いわ

令和2年11月27日(金)  
その2

## ◇ photo で見ると 校内巡り【秋】



今、校内で最も美しい場所は玄関前。ドウダンツツジが深紅の光りを放っているよう。イチョウとアメリカカフウに代わる主役だ。



向かい側の創立120年記念植樹のカンツバキも、ドウダンツツジと競うように幼葉を伸ばし、コントラストが映える。



すっかり主役の座を譲ったイチョウとアメリカカフウであるが、イチョウの全盛期にはドウダンツツジはまだまだ深まりに欠ける。(11/4撮影)



全盛期が一斉にやってこないのが、秋のよさかもしれない。

ところでアメリカカフウであるが、あることに気付いた。下の2枚がその写真。



撮影日は同日。  
11/12(木)

青木川側は真紅に対し、学校側は黄色を帯びている。

光の加減ではなく、明らかな葉色の違い。鑑賞は川側がベストである。

寒さを感じるこの時期に鮮やかなピンクの大輪を咲かせる花を紹介したい。  
コウテイダリアである。



コウテイダリアは、皇帝ダリアとも表す。まさにダリアの王だ。

本校には、体育館東の常東ランドに向かう校地の一角に植栽されているが、  
第21代校長の鈴木秋男先生からの贈り物である。

鈴木元校長先生が勤務された当時(昭和63年度～平成3年度)、本校にはコウ  
テイダリアが学校を彩っていたそうである。そして昨年、先生の叙勲表彰の折に  
来校され、コウテイダリアが無いことを察し、ご自宅で栽培され続けている株を  
本校に寄贈いただいたという経緯がある。

創立120年を祝うかのように、本校での初年度開花である。

恥ずかしながら、自分はコウテイダリアの開花時期等の見識がなく、10月下旬  
に下方の葉が変色していくのを見て、冬越しの作業に入っていくものだとばかり  
思い込んでいた。そして今、驚きの大輪開花である。

鈴木元校長先生の思いとともに、コウテイダリアで忘れてはならないことが  
2つある。

植え込みの隅にひっそりと佇む6年生が制作した木製看板とその後方にある  
「支え」である。支えについては、最近施したもので、丈が伸びた茎が垂れない  
ようにと山田校務員が気を利かせて対応してくれたものだ。

確かにコウテイダリアは美しい。

その美しさを支えるものがあることを忘れてはなら  
ない。

様々な思いや人の手の加わりがあり、それらが絡み  
合うことで「織り成す美しさ」なのである。

